

3-21 保育所（圏域：地域・地区）

3-21-1 施設再編の方針

対象施設
中央保育所、内竈保育所（複合施設：すきっぷパーク）、鶴見保育所（複合施設：ほっぺパーク）
施設再編の方針
<ul style="list-style-type: none">▶ これまでの公立保育所再編計画により、3次にわたって民間移管を進め、すでに3園の拠点保育所に集約されているため、建物の長寿命化を図り、維持・存続していきます。今後もライフスタイルの多様化による子育て環境の変化に合わせ、待機児童を発生させないように「子ども・子育て支援法」に基づく幼保一元化及び公立・私立施設の適正配置を進めます。▶ 内竈、鶴見の保育所は比較的新しい施設ですが、中央保育所は老朽化が進行していることから、必要な修繕を行い、現状を維持します。▶ 中央保育所は、現施設の立地状況が民家に近接しており、送迎用の駐車場も十分確保できていないため、将来的には周辺公共施設の再配置にあわせ、地域の子育て支援施設との複合化も含めた移転の可能性も検討します。

3-21-2 現状分析

① 施設の概要

別府市の認可保育所は28園あり、うち3園が公営の保育所となっています。

中央保育所は昭和53年に建築され、立田町に位置しています。平成16年に耐震補強と大規模改修を行っています。駐車場が3台分しかなく、送迎時の問題となっています。

内竈保育所は、市北部の内竈に位置し、北部子育て支援センターと共に複合施設すきっぷパークを形成しています。平成21年に建築されました。

鶴見保育所は、市西部に位置し、西部児童館、西部子育て支援センターと共に複合施設ほっぺパークを形成しています。平成17年に建築されました。

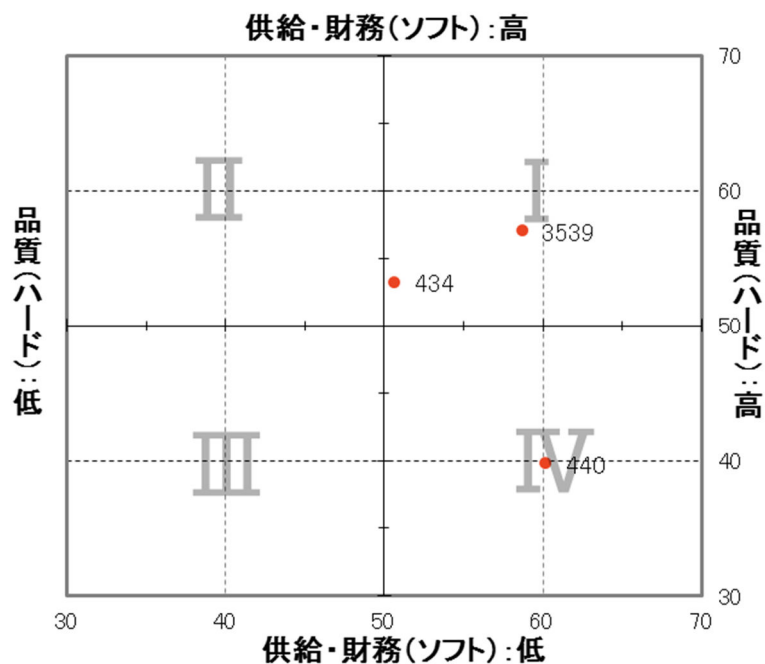
内竈保育所、鶴見保育所は子育て拠点施設として、子育てに関する様々な機能を備えています。

② ポートフォリオ分析結果

品質状況については、中央保育所が建築後 37.0 年を経過しており比較的古い施設ですが、耐震化対応はなされており、3 施設共に安全性は確保されています。

供給状況については、充足率（定員数に対する園児数の割合）、園児 1 人あたり面積により評価します。充足率は、3 施設ともに 100%を超えており、園児 1 人あたり面積も 10 m²/人程度であるため、比較的利用されている施設となります。

財務状況については、面積あたり市負担額、園児 1 人あたり市負担額により評価しますが、内竈保育所の市負担額が多いため、偏差値が低く算出されています。



台帳番号	施設名称	占有面積 (m ²)	品質				平均偏差値 (ハード)
			築年数 (年)	偏差値	耐震対応率 (%)	偏差値	
434	中央保育所	840.6	37.0	46.0	100.0	55.3	50.7
440	内竈保育所(複合施設:すきっぷパーク)	668.1	5.0	65.1	100.0	55.3	60.2
3539	鶴見保育所(複合施設:ほっぺパーク)	978.7	10.0	62.1	100.0	55.3	58.7

供給				財務				平均偏差値 (ソフト)	判定結果
充足率 (%)	偏差値	園児1人あたり面積 (m ² /人)	偏差値	面積あたり市負担額 (千円/m ²)	偏差値	園児1人あたり市負担額 (千円・日/人)	偏差値		
1.11	41.1	8.4	63.9	144.6	50.4	1,211.8	57.4	53.2	I
1.12	44.9	10.0	40.7	164.4	37.6	1,633.5	35.9	39.8	IV
1.13	64.0	9.7	45.4	126.7	62.0	1,224.8	56.7	57.0	I

図 58 ポートフォリオ分析 (保育所)

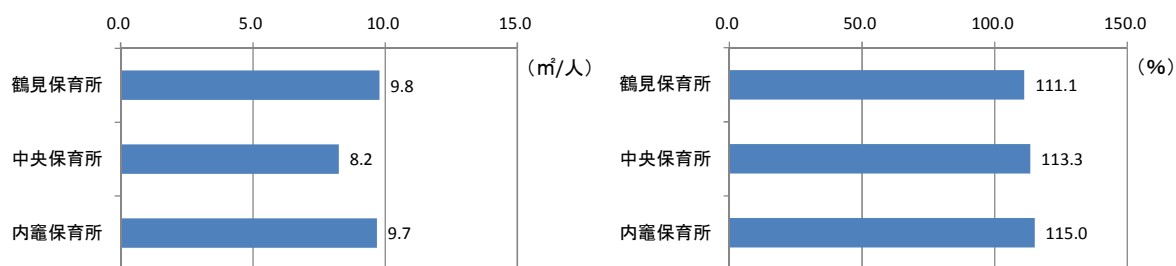
③ 老朽化の状況

中央保育所は平成 15 年に大規模改修を行いました。内装（床）の痛みが激しく、老朽化が進んでいます。その他の施設については特に問題はありません。

④ 利用状況

(i) 園児1人あたり面積・定員充足率

市が直営で運営する3保育園については、園児1人あたり延床面積には大きな差異はないことがわかります。また、いずれの保育園も定員を上回る園児数を受け入れており、当面は現状の形で運営することが必要と判断できます。平成 27 年度時点での待機児童は 0 となっておりますが、特定の保育所を希望するなど、私的理由により入所できない児童が多数います。



※平成 26 年度実績に基づいて作成

図 59 各施設の園児1人あたり面積（左図）・定員充足率（右図）